

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 15 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101793
法人名	医療法人 一洋会
事業所名	グループホームさくら
所在地	徳島県徳島市下町本丁61番地の1 (電話) 088-644-1101

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 13 日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤:10人、非常勤:5人、常勤換算:17.06人	26.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 2 月 20 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳島さくらクリニック
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は里の四季を眺望できる国道傍の高台にある。玄関前広場にはたくさんの桜がつぼみを膨らませ、利用者が木々の芽吹きや小鳥のさえずりに触れながら散歩を楽しむことができる自然に恵まれた環境にある。同敷地内にあるクリニックや施設・事業所、保育園等と連携が密に図られ、医療や健康面等において、利用者や家族の安心感が得られている。利用者は希望や能力にそった楽しみごとや役割を持ち、職員はユーモアや笑顔、優しさ等を交えながら、利用者や感謝の言葉を伝え合うなど支えあい、共に過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題である「家族等への報告」は、3か月毎の定期的な「さくら便り」の発行と個別に写真等を添えた報告がなされる等、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業所の職員部会で話し合い、評価項目ごとに確認しあいながら管理者と全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民(民生委員)、地域包括支援センター職員、地元の巡査、管理者で構成されている。事業所の運営状況報告や地域とのかわりなどについての意見交換が行われ、地元の方の事業所見学等を実施して交流に繋げている。会議録は全職員に回覧し、事業所の運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の要望等は、意見箱の設置や重要事項説明書に苦情解決のための外部の窓口があることを説明すると共に来訪時や家族会で呼びかけを行って把握している。運営推進会議には家族に交代で出席をお願いし、意見や要望を得るようにして運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の祭りや神社の清掃に参加したり、交番や市の支所に生け花を生けに出かけたりしている。また地域の子ども会児童を招待してクリスマス会を開催するなど、地域の人々との交流を大切にして支えあう関係づくりに努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝ホームの玄関に掲げた理念を確認し、気持ちを新たにして実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地元の祭りや神社の清掃に参加したり、交番や市の支所に生け花を生けに出かけたりしている。また地域の子ども会児童を招待してクリスマス会を開催するなど、地域の人々との交流を大切にして支えあう関係づくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日頃のケアについて話し合いながら、全職員で取り組んでいる。外部評価結果は職員部会で話し合いが行われ改善を図っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民(民生委員)、地域包括支援センター職員、地元の巡査、管理者で構成されている。事業所の運営状況報告や地域とのかかわりなどについての意見交換が行われ、地元の方の事業所見学等を実施して交流に繋げている。会議録は全職員に回覧し、事業所の運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実績報告等関係書類の提出や課題解決について、問い合わせや訪問をする等、担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話等での報告のほか、3か月毎のホーム便り、個々の便り等に写真掲載して、健康状態や暮らしぶりの報告がされている。敷地内の売店ではつけて購入でき、まとめて精算できるようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は、意見箱の設置や重要事項説明書により苦情解決のための外部の窓口があることを説明すると共に来訪時や家族会で呼びかけを行って把握している。運営推進会議には家族にも出席をお願いし、意見や要望を得るようにして運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ少なくし、馴染みの関係による支援を受けられるよう配慮している。やむを得ない場合はフェイスシートによる把握や引継ぎを十分に行い、利用者への混乱を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人合同勉強会や法人外の研修に交代で参加し、職員の習熟度に応じた育成が図られている。受講内容は職員部会等で報告し、報告書は欠席者にも回覧して全職員の共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、事業所訪問や意見交換等を行っている。また関連事業所と合同行事、勉強会を実施してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者や家族にホームを見学してもらい、ホームの雰囲気を知ってもらったり、職員と散歩しながらコミュニケーションを図り、徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の調理方法や散歩時には木々の名前を教えてもらったり、ねぎらいや感謝の言葉を交わしたりしながら、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の健康状態やその時の気分、顔の表情などの様子を見ながら思いや意向を把握し、本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き記録に残している。その記録を基に毎月のケア会議で職員のアイデア等を出し、それぞれの意見を反映した具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じた見直しのほか、利用者の状態変化等に併い随時、関係者間で話し合い、現状に即して新たに作成し、家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、日常的な健康状態の観察や相談を行っている。利用者や家族の要望にそって通院支援等も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。また協力医療機関の訪問診療もあり、適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けて、家族や主治医、看護師を交えて早期に話し合い、方針を共有している。状況の変化時にもそのつど話し合いができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は秘密保持の誓約書を提出するとともに、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応や言葉がけに気をつけて支援している。管理者は職員の日々の対応に気配りし、気づきがあるたびに職員と話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中、その時々々の利用者の気持ちや体調に合わせてながら柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談しながら、毎日の炊飯、味噌汁や日曜日の昼食づくり、買い物や献立づくり、盛りつけなどを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日利用者の希望に合わせて支援している。1日置きを目標にしてタイミングを図りながら声かけし、くつろいで楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かした生きがいプラン(お茶会、生花、掃除、洗濯物たたみ等々)があり、その日そのときの気分に合わせた支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や気分に合わせながら日常的に散歩やドライブに出かけ、花見やもみじ狩り等の遠出もしている。外出の機会が少ない方は車椅子介助により外気に触れる機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中、鍵をかけていない。職員は常に利用者を見守り、外出の気配があればさりげなく声かけし、気分の転換を図ったり、一緒に出かけたりしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、年2回、市消防署の指導を得て、法人合同の消火・避難訓練を実施している。また毎月1回ホーム独自に災害時避難訓練を実施し、職員の心構えや対応等、非常時に備えた取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を記録して把握し、不足時は嗜好物を勧めるなどして必要量確保できるよう支援している。献立は法人施設の栄養士によって立てられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花の鉢植えを飾っている。食堂や居間を中心に居室やトイレ等が配置され、常に職員の姿を見ることができ、安心感が得られるようになっている。テレビの周りの団らん場には安楽椅子が並び、対面する大きな窓の向かいには保育園児の集う姿が見える。部屋の模様替えをしたりして居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はタンスや机、椅子、テレビ、写真、時計など思い思いの品が持ち込まれ、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。		